



よもやまばなし「親ばか」



担任：～ちゃん、ぬいだ靴をしまってくれるようになったんです

涼香：すごいねー 言わなくてもしまえるようになったんだね

親ばかという言葉聞いた事があると思います。幼稚園には親ばかがたくさんいます。幼稚園でいう親は先生のことです。先生は園にいる全ての子をわが子と思ひ保育します。園全体の子を全部の職員で見るとというのが園の方針です。ですので、たくさんの親ばかぶりが見られます。もちろん私もそのうちのひとりです。

「～ちゃんが泣かずにお着替え出来るようになった」

「～くんがお返事をしてくれるようになった」

という事に対して先生達で「すごいね～」「成長したね」「頑張っているね」と喜び合います。また、やまゆりでは、定期的に、担任より職員へ子ども達の事について話す機会があります。そこでは、

「～くんは、ゴメンネが言えるようになりました」

「～ちゃんは、今、幼稚園へ行きたがらない日があります」

「～くんのお母様が妊娠中です。～くんのトイレへ行く回数が増えています」など。いろいろな事を全ての職員で把握します。そうする事によって、より多くの目でわが子を見ることが出来るのです。悩む時もみんなで、喜ぶ時もみんなで。

辞書で親ばかという言葉をはくと、「子ども可愛さのあまり、愚かしいまでに子につくす親のこと」と書いてあります。あまり良い意味ではありません。私個人の意見として、子どもはどんなに可愛がっても良いと思います。たくさんの愛情に包まれて育つ子は幸せだと思います。間違えてはいけないのは、過干渉ということではないかと思います。可愛がると過干渉の違い、難しいかもしれませんが、出来る事をやらせる、チャンスを奪わない事がコツではないでしょうか。保護者と先生、可愛いわが子の為に、愛情たっぷりの良い意味の親ばかになりたいですね。



主任 山之内 涼香

